

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子 小野澤繁雄
布宮 慈子

卒寿とてうからやから十人が揃ひてくる我が家の賀なり	3月26日	K
卒寿とふ河村さんに驚きて初に会ひたるころ思ひ出づ	3月27日	N
男の子となりにつか眠り込むワンマン一両そのなかのこと	3月31日	O
義兄上の九十九歳八ヵ月年功積みきて閉づるは刹那	3月31日	K
年度末過ぎて迎ふる春の日に白梅かをる今日は清明	4月4日	N
どこの桜ということもなく若木二、三いつもことしも少し遅れて	4月9日	O
遅れ咲く山桜花この年は若葉ともなひ守られるごと	4月14日	K
満開を過ぎて桜の花びらがお濠の水を覆ふ公園	4月17日	N
桜終りをみる人はなく上沼にみるは流れか音もしている	4月20日	O
わが愛づる山桜この年は葉の間に花咲き花ふぶきなし	4月22日	K
山桜ことしも見つつ走りたりふはり咲きたる山越えの道	4月24日	N
沿線は房総半島にのこり花八重の桜も緑に隠る	4月29日	O
さ庭にも若葉いきほひ陽光がはねてわが部屋萌黄に染め来	5月8日	K
なにゆゑか家の空地に生い茂るからすのゑんどう刈り取つてをり	5月14日	N
Netflixの息子とされて今人気ソン・ガンのプロフィールにも兵役の欄	5月16日	O
若者の思ひもよらぬ犯罪に何らかの義務有りても良からん	5月22日	K
若さゆゑ無関心のこと多かりき嫌はれものの杉菜、 <small>やぶがらし</small> 藪枯	5月27日	N
役柄のままなれど韓国のドラマにみるに子役のよくて	5月31日	O
ほちぼちと終活始めて来し方に素通りしたること多かりき	6月5日	K

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

色づきて落ちる紅葉あざやかに歩道にありて冬の入り口	12月6日	N
咳をして若い人ともしれるやと自転車の人追い抜き際に	12月10日	O
歯科女医が带状疱疹顔に出てひつそりとペインクリニックへ	12月20日	K
この国にワクチン神話の根強くて理解されざるワクチン後遺症	12月24日	N
臭覚がなくなってから幾日間これもひとつの引き算の世界	12月27日	O

2024年

つぎつぎと新型コロナウイルス出現し人類史上のマイルストーン	1月9日	K
七尾市の知り合ひの無事告ぐるときメーリングリストは体温をもつ	1月12日	N
ご夫君を先になくしたそのことが市川さんをしのんでひとつ	1月16日	O
年賀状の数の減りしをうべなふも老いの暮らしのさまざまを知る	1月30日	K
年賀状これが最後と告ぐるとき身体わづかに軽くなりたり	2月3日	N
パラパラと下二桁を確かめて今年もひとつ切手シートは	2月7日	O
年賀状に今年で終はるの付記増えて老後の孤独楽しむらしも	2月16日	K
不登校の孫もつ人と共に観る「夢みる校長先生」たのし	2月22日	N
よりそわれそうもかたちで老夫婦山の万座にきている幾組	2月27日	O
近隣にワンルームマンション三棟建つ若者たちの結婚離れ	2月29日	K
ひな祭り雪国なれば谷地にてはひと月遅れに雛飾りする	3月3日	N
訪れてしる名のひとつ花巻に花巻人形人にかぎらぬ	3月6日	O
雛の日に手巻き雛すし食べたり救急車の中義兄の付添ひ	3月16日	K
ひな市は月遅れなり間もなくといへど山形は雪化粧の朝	3月21日	N
何か輪はミーティングしているや朝日曜はおじさんらソフトボールに	3月25日	O

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

南さんが云う入道雲入道がそらいっぱいになる昨日うれしさ 7月26日 O

連日の夏青空には体温を超ゆる暑さよ 冷房必需 7月30日 K

切り替へて夜の散歩に出てみれば東に大きまんまるの月 8月2日 N

認知機能検査受検の日の朝も歩いて今日は八月四日 8月7日 O

極暑日のタクシー待ちは荒修行 むなしく悔やむ免許返上 8月13日 K

運転歴十年を超えなほわれは左折の多き道を選びつ 8月19日 N

バス停にのり置いてある自転車ら最寄り駅なしバスにのるまち 8月26日 O

愛車にて10分足らずの道のりをとぼとぼ歩く交通難民 8月28日 K

目的は畑に行くこと軽トラに乗る叔母いまだ免許を持ちて 9月10日 N

車にきて歩いてまた車に帰るウォーキングセンター人ら帰りか 9月15日 O

猛暑日の日ざかり杖つき菩提寺へ免許返上悔みつつ歩む 9月20日 K

半日を運転すれば「返上」とふ言葉は重くおもく響きぬ 10月5日 N

この頃は史劇をみないそのドラマ韓国にする右側通行 10月8日 O

タクシーを待つ間に今なほつりのりくる免許返上早まりたりと 10月14日 K

そのむかし仕事帰りに駅までを赤い車に乗せてもらひき 10月20日 N

通勤につかいしみちにもどるよう町内いくつ歩き通して 10月23日 O

心決め二足歩行に専念す 菩提寺往復五千歩なりぬ 10月28日 K

久びさに勢至堂への道ゆけば前の荒物屋なくなつてをり 11月10日 N

どうかして線路に草はかまわれぬ残っているや幹線ででも 11月14日 O

わが犬と散歩の途に愛でるしも露草月見草この年も見ず 11月16日 K

わが車に冬タイヤを履かせればいよよ来るなり雪の予報が 11月22日 N

合併で少なくなりしと説明は道路元標これともひとつ 11月27日 O

散歩みちに散り敷く枯れ葉は花水木わびつつ踏みて音を楽しむ 11月30日 K

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

山形の桜未だし観てきたり同級生の油絵「桜花」

3月27日 N

これが咲くと咲いた感じがするよねと園の桜は育ちしきくら

3月29日 O

山形の真ん中の桜満開にて西公園は七分咲きなり

4月6日 N

その週は心うごかしソメイヨシノ今は大鳥、枝垂れをしみる

4月10日 O

いちだんと鳥の囀り高くなり枝垂れ桜は葉桜となる

4月17日 N

何ごともつれているやききなれて鶯のこえ四月の山に

4月22日 O

何ごともなき一日なり速報のメール「大谷6号2ラン」

4月27日 N

日曜朝は女子のソフトの練習かベースあたりの草抜いている

5月2日 O

数人の小父さん小母さん手芸店にグラウンド・ゴルフに使ふ布を選ぶ

5月11日 N

自転車の練習をしているは父子そばでまもるはその祖父ならん

5月18日 O

子ども用ピンクの自転車ふえたるは最近越して来し人のもの

5月28日 N

グランドゴルフはチームプレーじゃないからと内田さん話人気の訳に

6月2日 O

ジュワジュワと集団のこゑ響きゐて梅雨空は暮る椋鳥ならむ

6月13日 N

梅雨に入り小学生の傘の色 黄色に混じる桃色うれし

6月13日 K

実をみぬはオス木だからか山桃ののけぞりながら公園木は

6月18日 O

実るなく香るとてなきあぢさゐの瑠璃の花たま雨にかがよふ

6月21日 K

何十年ぶりに作りし「なた巻き」を毎日食べて昔語りす

6月27日 N

のびすぎか木立仕立てかアベリアに花生臭きにおいもぞする

6月30日 O

菩提樹のあまた青き実香るなく花の華やぎ籠りて揺るる

7月2日 K

菩提樹はインドにつながり思ひ出す優しく弱き裕之くんを

7月7日 N

「みんなの願いがかないますように」短冊はこれも七夕願いのひとつ

7月14日 O

空梅雨の笹の葉かさかさ揺るるのみ「祈 平和」の墨書短冊

7月17日 K

梅雨明けと見らるといふ発表に久しぶりなる青空を吸ふ

7月22日 N

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子 小野澤繁雄
布宮 慈子

珍しく秋が長いと話しつつ来年の手帳を買ひ求めたり

11月30日 N

菩提寺の庭は練馬の保護樹林 桜、銀杏に楓の紅葉

11月30日 K

オルソンの家とわが呼ぶ排水機場川べりにして川より高く

12月3日 O

冬枯れの川辺を行けば来春の桜並木の明るさは見ゆ

12月9日 N

すつきりと葉を落としたる桜の枝にはや花芽あり春遠からじ

12月15日 K

枯葉ばかりになりたるさくら十月桜花の気配は春につづいて

12月21日 O

どか雪のあとの晴れ間のうれしさや清々として散歩に出でむ

12月27日 N

黄葉の桜落ち葉が軒下に吹き寄せられる乾燥の季

12月31日 K

2023年

霜柱のこわれたみちがまたこわれ水のしめりは黒土の上

1月5日 O

積もりたる雪がとけては流れゆくこの循環の冬は正直

1月12日 N

二十三日ぶりの降雨に庭木みな生氣あふれて梅に一輪

1月22日 K

花のある畑畑のある庭庭のなき家に育ちし子どもらおもう

2月8日 O

立春を過ぎしといへど雪の降る羽州は未だ春には遠し

2月15日 N

雨水その意味がクイズになっていた雪の残りの幾日間へて

2月20日 O

田の上を白鳥三羽飛び行けば春へ春へと近づく羽州

2月24日 N

白梅のある家紅梅のある家ともにある家咲いてしれるや

2月27日 O

啓蟄に梅の蕾の見えてきて春めく出羽の雪は消えゆく

3月6日 N

職なる通学路またこども一一〇番の家いずれ春色

3月10日 O

梅咲いて梅見のころとなるはずの羽州まさかの週末の雪

3月18日 N

弓取式そのマネが上手かったのはだれ中学時代のだれかれおもう

3月21日 O

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

おそらくは梅雨明けしたとふ山形の赤紫のあぢさゐの色 6月30日 N

梅雨明け後の猛暑に耐へし紫陽花が豪雨も慈雨とうなづくごとし 7月18日 K

大雨のあとは決まって川にくる村の大人もしていたことに 7月21日 O

寒河江川の水かさ多し上流の月山ダムが放流してゐて 7月30日 N

庭の木をうるほすほどに雨降らず猛暑の夕は散水すなり 8月2日 K

ヒロインの名も勝手によみつつ下巻にきてつと確かめぬ逢衣をあいとし 8月6日 O

岩木川の濁れる流れに「北苑」の歌の友らよ避難されしや 8月10日 K

町内の違いのようなことひとつ下松にきてしきり蝉声 8月16日 O

蟬声のしきりなるを聞くときに記憶は語る夏の終はりとは 8月29日 N

久しぶりにミンミン蝉の声を聞く菩提寺の奥の院にひとり 9月2日 K

翼あるカイトのようは案山子なり日ざし透かして大きくも揺る 9月6日 O

パッキリと晴れたる空を縦横に汚してゆけりケムトレイルの雲 9月15日 N

秋空に入道雲の白まぶし遠く台風侍らす奇なり 9月15日 K

野分待つ秋の一日朝から降りみ降らずみ落ちつかなきに 9月19日 O

秋彼岸過ぎて散歩に出でしとき金木犀かをる羽州山形 10月1日 N

木犀と書きて犀の字見つめゐるその角「魔除け」と母は言ひにき 10月6日 K

木が多く伐採されてそれも過去見通し、見晴らし今の価値なる 10月13日 O

紅葉を夕日が照らす瀧山は蔵王山の前にある山 10月18日 N

柿の葉を秋の夕つ陽照らしゐるその実存のはなやぎはかな 10月22日 K

ウクライナかかし祭りに出されたは（神様お願い）少女の案山子 10月29日 O

瀧山は初冠雪して山形に冬支度のごゑ聞こゆるごとし 11月4日 N

雪の舞ふウクライナの爆撃痕「ぼかぼかカイロ」すぐ届きたい 11月22日 K

蛙手のいろいろあるが落ちているカエデ見本園二十種ばかり 11月25日 O

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

苗木より育てし紅梅この年も立春たがへず一輪開く
2月17日 K

この日みた花白梅は白いろといいきれぬいろを見上げて
2月21日 O

春が来る魚と聞きてスーパ―に庄内浜の茶メバルを買ふ
2月24日 N

寒風に苛まれつつバス待つに河津桜の咲き初むる知る
2月28日 K

さし渡す枝のみなるは梨の畑ここに初音はうぐいすのもの
3月7日 O

春が来て小鳥のさへづり聞こえればいかにも悲し人の戦ひ
3月24日 N

公園の桜が一分咲くを見て戦に果てし若人思ふ
3月25日 K

さくらばなそのあしもとに同じくに葉に先んじて花は連翹
4月1日 O

お花見の噂を関東より聞きて一週間の後に羽州の連翹
4月7日 N

咲き盛る桜に雨のそぼ降りて戦の報せのこもごも憂ふ
4月23日 K

米沢に下って走る数年をここにくらししあれこれを聞く
4月26日 O

メーデーといふ日があれば誘はれて集会に行きき子の手を引いて
5月1日 N

七〇年前高校生の時なりきマルキシズムにあくがれみたり
5月4日 K

草のびて残りしところなおみちで春のみちゆく青年腕振る
5月9日 O

友人の蕨畑に入りてより夢中になりぬ蕨つんつん
5月16日 N

庭師来て松の穂刈りつつこの年は草木の繁り盛んと言へり
5月17日 K

庭の人と鉢のアジサイかぐや姫の話しそれから多くに及ぶ
5月21日 O

山形の辻に祀らるる霊石の隣の紫陽花つぼみは固し
6月1日 N

テレビには登山電車に触るるごと紫陽花今を盛りと咲きゐる
6月5日 K

板東十一番ここの三重塔の關係に今はテレビにみる源範頼
6月8日 O

テレビには頼らぬ日々を送りきて十年が過ぐ今の安らぎ
6月16日 N

武蔵野三十三所の観音巡礼思ひ立つなり菩提寺がその一番なれば
6月21日 K

鎌倉の寺の感じはアジサイのいくつかながら比企郡宗悟寺
6月25日 O

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子 小野澤繁雄
布宮 慈子

一つ屋やに囲かこわれていて立派りっぱさは中松地藏中松本町のもの

9月18日 O

上町うはまちの勢せいし至菩薩しぼさつは山形十三仏霊場の第九番札所なり

9月28日 N

菩提寺は武蔵野くわんおん三十三観音霊場の一番なれどもはや巡れぬ

10月10日 K

庭先に爪切る音のひびきおり坂東十一番かたわらの家

10月14日 O

阿蘇山が噴火したら山形は寒くなり今日ストーブ点けた

10月20日 N

季ときごとに愛でし桜もみぢに紅葉もみぢなく立冬迎ふ 枯れ葉を拾ふ

11月4日 K

生垣なまきりに伐りくれし実の二つほど郁む子べなるものをしばらく飾る

11月8日 O

月山つきやまが白い帽子をかぶつたよ紅葉する山のもつと向かうに

11月15日 N

庭うちの千両せんりやうの実のたわわなり朝な夕なに朱色の声かけ

11月25日 K

歩く人の出番でしばんのような時間ありここに先生と呼ばれる人

11月29日 O

雪降りのきのうの天気うそのやう晴天のなか弾はじんで歩く

12月14日 N

老いたれど三着さんぢやくならべて着衣決きやくむスマホに今日の気温を訊ききて

12月17日 K

単車たんしゃでくるサンタさんともみていたにピザではなくてヤクルトの人

12月24日 O

2022年

夜遅よぢき時間なれどもピザ屋ピザやさん雪の轍わだちをヨロヨロと行く

1月4日 N

積雪せきせつの10センチほどに幽閉ゆうぺいされ七草しちそうがゆをとくと賞味す

1月9日 K

辻立つじたてちのお地藏ぢぢざんさんのその小柄小菊せうがらぎくが揺ゆれてあしものもの

1月13日 O

雪ゆきの日に部屋へやを明るく照らすごと橙色だいじやくに咲くカラッコエ

1月18日 N

正月しょうげつの生花なまはなに添そへたる千両せんりやうの朱しゆの実をほぐし餌皿えしんにのせる

1月24日 K

飾くずのきりは眼まなこのためのもの川橋かわはしのたもとを飾くずのきる樟くすのきひとつ

1月28日 O

オミクロンは風邪かぜと言いひ切る医師いしのみて南天なんてんの実みに雪は降りしく

2月3日 N

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

野のみどり山のみどりの変はりゆくさまを映して五月はすすむ

5月12日 N

わが庭に若葉茂りて初夏のよそほひ自肅の日日をなごます

5月15日 K

睡蓮に白がくわわって五領沼去年の夏にちかづくごとし

5月20日 O

手裏剣のやうな形のヤマボウシ真白に咲きて五月尽なり

5月29日 N

あぢさゐの白き花びら凜として六月の光のなかに在り

6月3日 K

六月の朝は鳥たちもどりみち同じ鳥とはかぎらぬながら

6月5日 O

桜桃あつたちの季節なれども静かなり他人ひとの手になる叔母の畑は

6月12日 N

スーパ―に「山形さくらんぼ」買ひ求め義兄あにと姪との父の日ディナー

6月20日 K

ならば歩きを半周がほどその間はワクチン接種のことにみにすぐ

6月23日 O

ワクチンは世界を救ふか打つ者と打たざる者は永遠に混じらず

6月28日 N

ワクチンの接種終れど習慣は自肅のままに安心安全

7月3日 K

傘をしてまでして歩く人少なまして年寄り出ている鴉

7月8日 O

傘さして応援してはならぬとふサッカー場に雨合羽あまた

7月15日 N

梅雨明けて晴雨兼用傘出せどショッピングカートに使ふことなし

7月28日 K

沼からでなく沼に下ってきたところ睡蓮の、鯉の沼ひとつの沼に

7月31日 O

最上川の洪水のためあるといふ大久保遊水地は役割果たしき

8月7日 N

梅雨明けのあと感染に観戦とせはしきままにはや秋たちぬ

8月20日 K

くしゃみしているそれは人でなく犬暑さのなかに秋風の吹く

8月25日 O

秋風の急に身に沁みサッカーの日本代表オマーンに敗れつ

9月2日 N

水道の水の温みに秋を知り「猛暑」の言ひ訳もはや効なし

9月3日 K

雨の日も雨のつづきも気疎くてとしよりしことのそれも一つか

9月7日 O

雨の日の次の青空うれしくて秋の光の中を歩きぬ

9月10日 N

東窓開けて陽光久しかり大日如来もろてに両手を合はす

9月15日 K

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

あさつては雪降るらしと伝ふるに庭木ゆるがず乾燥に耐ゆ 1月22日 K

晴れ間でも雨のち晴れはキラキラし洗われ出でてなお冬のそら 1月25日 O

サラサラとまたモサモサと降つてくる雪に見てゐる無常といふこと 1月31日 N

中空に寝待ちの月のくわうくわうと睦月尽にて無事を礼せり 2月1日 K

スーパ―を出てみる空は夕焼けて日々みるそらをこのそらとする 2月4日 O

雪の日も晴れ間みつけてスコップを持ち出してゆく日課のやうに 2月10日 N

東隣の窓よりの反射光 仏間いつぱい夕陽が染める 2月17日 K

白梅を先にみた日と後にみた日と花をみて紅白を云う 2月18日 O

瀧山りゅうざんは蔵王のいちばん近い山夕陽当たれば白く輝く 2月25日 N

親族うかららと三回忌法要の境内を紅梅白梅愛でつつ歩む 2月28日 K

一歩ひときして町内の梅そのほかにみた花あれど梅がのこれる 3月3日 O

刻まれてゆく三一一それぞれの記憶を越えて春霞立つ 3月11日 N

紅梅のさいごの一花散りしあと白沈丁花のい群れ咲きゐる 3月14日 K

アパートの庭にもみえて白蓮の重々とみゆ幼木なれば 3月17日 O

城跡の園の紅梅咲き始むここ山形は春の彼岸に 3月22日 N

さ庭にも紅梅のあと沈丁花、海棠咲きつぎ励ましくるる 3月31日 K

新明小あるは御茶山町となり町内まちが神明町なるわからぬ長く 4月4日 O

白鷹町にコブシの並木あるといふ花卉の数の合併なりき 4月11日 N

わが町の名は高野台 江戸時代に谷原やはら在家と呼ばれしところ 4月14日 K

名としては6・4号橋とある跨線橋名というよりは識別子なれ 4月17日 O

三十年ともに「展景」作りきし池田桂一伊達市に逝きぬ 4月22日 N

おだやかなお声が和室にしつくりと心に残るかの日の池田さん 4月22日 K

池田さんの若き日しりぬ教室に隣り合いつつそれも少しづつ 4月27日 O

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

もどりこし子とのくらしはまた家族ただ待つことの時間時間は 10月7日 O

老母に会ひに来られぬ関東の友達のごゑ籥木あかし 10月14日 N

病院の面会自肅に九十路執念解きて携帯愛用 10月18日 K

日常に「新しい」が付くスマートフォンにマスク姿がただ付加されて 10月21日 O

編集の師匠でありし村井氏の偲ぶ会にも行けない今は 追悼・村井弘明さん 10月26日 N

自肅とて友とスマホの掛け放題互かたみに「お喋りリハビリ」として 11月9日 K

挨拶を返さぬ決まりそのように歩きのわれに自転車の人 11月11日 O

「あいさつ」と「挨拶」の文字あひだには読めるが書けぬとふ惑ひのありて 11月19日 N

人形にご挨拶するゼロ歳児動画に向きて「生涯大切」 11月21日 K

歩道橋段差小さを上り下るおさなき頃は歩道橋なく 11月24日 O

歩道には落ち葉多さばにてNDソフトスタジアムと呼ぶるサッカー場に集ひぬ 11月25日 N

散歩みちにボール蹴る子ら見ずなりて和製マラドーナ出づる由よしもがな 12月6日 K

長い坂下りつつある秋の日は大人になりし子を思いつつ 12月8日 O

きのふより舞台が転換したやうに世界はいきなり白に変はつた 12月15日 N

白銀の世界に心躍りしは二十代 今、転倒禁忌 12月19日 K

この角でポンプの音をきいていしその養魚場一つ昔か 12月22日 O

釣堀の武蔵境にありしこと今思ひ出づ釣りしことなし 12月27日 N

2021年

池の辺へに釣り竿の先見つめぬし翁の横顔今は幻相 1月8日 K

一日分の会話というをしておりぬ池をきれいにしている人と 1月12日 O

雪被る蔵王を眺むる夕べかな大寒の一日ひとひはや過ぎむとす 1月20日 N